

## 2002～2013 年度の活動報告

(平成 14～平成 25 年度)

事務局長 松本耕司 (高 16)

### 1. はじめに

「50 周年記念会報」では 3 名の大先輩の方々の投稿を復刻掲載し、草創の頃の足跡に思いを馳せたが、この「55 周年号」では現代史を記録に残すべきであると考え、不十分であるが急遽この稿を書かせていただいた。

総じて、この 10 年余の期間は、昭和 33 年から始まった戦後の (第二次) 近畿双松会に、北高世代の方々の参加を願い続け、様々な新しい試みを加えながら、**思考錯誤**を経て昨年 4 月の会則改訂に至ったと言えることができる。

この会則改訂は、近畿に在住する卒業生が、あらためて近畿双松会に入・退会するための手続きを不要とし、全員が本来、生涯会員であることを明記し、「会費」という言葉も「運営支援費」に変更するなどの**基本的な改訂**をおこなった。

これにより昨年 4 月からは、新たに第三次の近畿双松会がスタートしていると言ってもいいのかもしれない。

### 2. ご縁の始まり

私事にわたって恐縮だが、私は 16 期で北高としての入学 2 期目、大橋の南には高校時代の友人はいないという年代である。

そんな私が確か 50 歳を過ぎた頃、職場に

石橋直之氏 (22 期) の訪問を受けたことから近畿双松会とのご縁が始まり、2000 年 (平 12) には正式入会し、16 期幹事にもなった。

2002 (平 14) 年には選抜高校野球 21 世紀枠での甲子園出場が決まり、その前の高揚感一杯の役員会に参加して、すごい組織だなと驚いたことを覚えている。

その熱狂の甲子園が終わった某日、阪神百貨店・中華「黄老」に当時の和田亮介会長 (1 期)、山本雅昭副会長 (7 期) から若手の役員に招集がかかり、一言で言えば「これからの近畿双松会を、とりわけ北高世代の**会員の拡大**を」して欲しいとのご要請を受けた。

こうなれば逃げられるものではないと覚悟を決めたことを昨日のように思い出す。

### 3. 北高世代の会員拡大

この 2002 年の総会で和田会長が退かれ、新しく山本会長が就任。事務局長は永江幹雄副会長 (13 期) の兼務、私は「**会員増強担当**」という役目をいただき、その後、ひたすら北高の後輩世代の方々に参加を呼びかける日々が始まった。

活動は、登録会員が 400 名を割るところまでに減っていたことから、未登録の沢山の皆さん (特に北高世代の) への案内をどう増やしていくかから始め、若い期の役員の方々とも善後策の協議を重ねていったが、これが簡単な話ではないことをすぐに思い知らされることになった。

第一に、北高は、南高・東高もある現在では松高時代の 3 分の 1 の規模である。

第二に、昔日に比べ松江との距離が飛躍的に近くなり、大阪で集まる意味はあるのか？と誰しも考える。

**第三に、同期会があれば十分で、同窓会ま  
でいるのか？という永遠の課題がある。**

第四に、65 歳程度までは働かざるをえなくなっている社会の変化、即ちお互いに余裕がなくなっているという問題がある。

そして最後に決定的なことは、北高世代の人たちの大半は近畿双松会の存在を余り詳しくは知らず・・・、つまり旧制中学の世代や松高初期の世代の方々との間には、大きな空白ができていたという事実であった。

旧制、新制の問題だけならまだしも、新制になってからも松高が南・北に分割されたことは、伝統を継承することが基本の同窓会にとっては大変大きな問題であった。

そういった課題に、後述する「この間の取り組み」で対応しながらすすめてきた登録会員数の変遷は、毎年の入・退会を差し引きした後の数字で下記のとおりである。

#### <登録会員数>

2002 年：372 名  
2003 年：402 名  
2004 年：417 名  
2005 年：432 名  
2006 年：432 名  
2007 年：471 名  
2008 年：480 名  
2009 年：479 名  
2010 年：489 名  
2011 年：481 名、

#### 4. これまでの取り組みだけでは限界かも？・・・そして「会則改訂」へ

前述の経緯のとおり、開始時より登録会員が差し引きして 100 名以上も増え、北高世代の比率も年々高まってきたのは喜ばしいことであったが、後半の数字から、これまでの取り組みだけでは頭打ちになってきていたことを感じていた。

また、入会・退会を、毎年いちいち個別に管理していく方法が今後の時代も可能であろうかという問題も考え、2012 年度から役員会での数次の協議の上、2012 総会で承諾をいただいて、冒頭の**会員資格をオープンにする**という抜本的な「**会則の改訂**」に踏み切った次第であった。

#### 5. 2002(平 14)～2013(平 25)年度の主な取り組み、出来事：

この間の主な取り組み、出来事を以下に列記し、将来への記録にとどめておきたい。

##### ① 2002(平 14)年度

北高が選抜甲子園「21 世紀枠」に出場、アルプススタンドで大応援。  
・第六代会長に山本雅昭氏（7 期）、副会長に門脇州美（12 期）・永江幹雄（13 期）・内田一三夫（14 期）・松本耕司（16 期）・千葉秀二（19 期）・石橋直之（22 期）の各氏。  
また、**事務局長に永江幹雄副会長（13 期）が就任。**

##### ② 2003(平 15)年度

伝統行事の「行楽会」（朝倉一乗谷バスツアー）で、山本律郎顧問（中 57 期）が最後となった名歴史解説。

- ・総会で児玉治利常任顧問（中 61 期）が「母校を離れて六十年」の歴史に残る名講演。
- ・この年から総会案内、入会案内の発送数を北高世代を中心に一気に拡大。

### ③ 2004(平 16)年度

- 副会長に押田良樹氏（11 期）が就任。
- ・長く会報発行を担当された竹内一郎氏（1 期）、門脇州美氏（12 期）が退任。
  - ・この年から将来への布石として北高新卒の近畿地区進路者に総会の案内を開始。

### ④ 2005(平 17)年度

- ホームページの本格リニューアル開始（押田副会長担当）
- ・天川村行楽会をもって、近畿双松会の名物行事であった「バスツアー」を終了。
  - ・会報発行担当に千葉潮副会長（30 期）が就任。

### ⑤ 2006(平 18)年度

- 監事に高本薫氏（13 期）が就任。
- ・バスツアー中止に代わり、新しく「歴史ウォーキング」を開始（第 1 回は山の辺の道）。（押田副会長担当）
  - ・新しく「文楽鑑賞会」を開始。（千葉潮副会長担当）
  - ・本部「双松」名簿発刊を基に、5 年に一度の近畿在住者名簿の総点検。
  - ・この頃から、総会、各行事参加者の写真は予算の許す限りお届けすることを励行。

### ⑥ 2007(平 19)年度

- 陸上部 OG の辰巳悦加さん（51 期）が世界陸上大阪大会（長居）に出場の快挙。松江メンバーと協力して応援団を編成。

- ・総会で辰巳さんが講演：「世界陸上女子 3000m 障害に日本代表として出場して」
- ・第七代会長に永江幹雄氏（13 期）、副会長に渡辺悟氏（20 期）、事務局長に松本耕司氏（16 期）が就任。

### ⑦ 2008(平 20)年度（設立 50 周年）

- 年会費 2 千円を 3 千円に改訂。
- ・会則内規の「慶弔規定」を廃止。
  - ・新しく「落語鑑賞会」を開始。（第 1 回は天満天神繁昌亭）（渡辺副会長担当）

#### 「設立 50 周年記念総会」を太閤園迎賓館で開催（158 名参加）

- ・記念講演はソニー(株)井原勝美副社長（20 期）の「ソニーのグローバル成長戦略」。
- ・感謝状は特別会員八木幸治先生、児玉治利第四代会長、和田亮介第五代会長、山本雅昭第六代会長、松本幹彦双松会会長（1 期）の五氏に贈呈。
- ・記念品は永年連続ご寄付者 43 名に贈呈。
- ・懇親会では美保関町から「正調関乃五本松節保存会」の公演

#### 「設立 50 周年記念会報」を発刊。

- ・過去の会報から米村又男（中 34 期）横山春樹（中 55 期）岩成哲男（9 期）三氏の「復刻」版を掲載。
- ・また 2003 年の児玉常任顧問の総会講演内容をご本人の加筆を経て詳録を特別掲載。
- ・会員からの「近況紹介」を掲載。
- ・会報の発行時期を総会時から年度末へと変更、年度と掲載内容のズレを修正。

## ⑧2009(平 21)年度

### 運営方針の明確化。

- ・50周年終了を期し、以降「5年に一度の周年事業を盛大に行い、間の4年の通常年は巡航運転」として、運営にメリハリをつけていくことを決定。
- ・第八代会長に押田良樹氏(11期)が就任。
- ・会報発行担当に渡辺悟副会長が就任。通常年会報の簡素化、広告取り活動を抑制。
- ・会報発行は、総会に次ぐ伝統事業として将来に亘り継続。
- ・「会員名簿」の発行を中止、年度異動者のみを会報に掲載。
- ・東京双松会と総会相互表敬などの交流開始。

## ⑨2010(平 22)年度

- 副会長に松本潤氏(23期)、監事に梅木隆志氏(16期)、物種慶子氏(20期)が就任。
- ・総会を念願の「大阪市中央公会堂」で開催(参加132名)。(宍道弘志常任幹事(31期)のくじ運でゲット)
  - ・世代を超えた交流促進のため、「小・中学校名・在校時クラブ名」の登録を推進。

## ⑩2011(平 23)年度

- 5年に一度の本部「双松」名簿発刊により、近畿在住者名簿を総点検。
- ・総会で初のミュージックライブを、安来から宇田川妙さん(27期)を迎えて開催。
  - ・新しく「健脚ウォーキング」を開催。以降、「里山歩くぞ!ハイキング」に改称。

## ⑪2012(平 24)年度

- 総会で「会則」を抜本的に改訂。
- ・会員名簿の会報等への掲載を廃止。

- ・北高の協力により当年度「松江北高十大ニュース」を会報に掲載。

## ⑫2013(平 25)年度(設立55周年)

- 4月「新会則」の運用開始、「会費」の名称を「運営費支援費」に変更。

### 「設立55周年記念総会」を大阪市中央公会堂で開催(153名参加)。

- ・記念講演は山陰合同銀行(株)古瀬誠会長(16期)の「企業の社会貢献活動～私の経営理念～」。
- ・55周年記念事業は「謝恩大福引き大会」を実施。

### 「設立55周年記念会報」を発刊。

## 6. 振り返って

振り返って見ても、当初に考えた北高世代の拡大は、参加が不活発な期も多くあり、まだ不十分である。しかし、とにもかくにも55年の時を刻むことができたことは、誇ってもいいことではないかと思ひ、一面では安堵の思いもしている。

旧制松江中学と新制の松江高校、ましてや2分割、3分割された松江北高では、138年の歴史を経て、同じ景色を見ることはなかなかむつかしい。

しかし、近畿双松会の今日があるのは、松中・松高・北高と時代と形は変われど、それぞれがそれぞれの母校に誇りと愛情を持ってきたからこそ、その総和が伝統となり、この近畿の地で歴史の糸を紡いできたと言っても間違いのないのではないかと考える。

この近畿双松会を自然な形で将来につないでいくことが、この10年の課題であったが、形の上では「会則の改訂」により後世の皆さんへのメッセージは発信できたと信じていたい。

ただ、結局のところは、会則があろうがなかろうが、卒業生全員がこんなにも長く続いたこの会をお互いの共有財産として、慈しむように守っていくことが大事なことはなかろうかと考えている。

## 7. 今後への思い

「同期会をしているので双松会までは考えません」というお答えに反論することは殆ど不可能である。同期会は、人生の同じ時間を同輩として共有してきた、励まし合い慰め合うことのできる場で、いつの時代でもそれが“核”である。そして、同期会は同窓会全体の中では言わば「横の軸」である。

一方、時代をつなぐ言わば「縦の軸」は歴史や伝統を伝えていく上で欠かせないもので、先輩を敬い、後輩を慈しむことのできる近畿双松会のような場合は、「縦糸・横糸」綾なして初めて織物ができるように、人生において大変有意義な存在であることは間違いないところであろう。

母校が存在する限り、毎年前途有為な若者が輩出されてくるが、それを楽しみとし、いつまでも慈しむ気持ちで迎えることができる近畿双松会でありたいと願っている。

55周年懇親会の締めのご挨拶で、和田亮介第五代会長からは「素晴らしい懇親会だった」とお褒めの言葉をいただいたが、まだまだ「道半ば」であることは前述のとおりで、

引き続きこの会を将来につないでいくために、新しい若い力の参加を得ながら卒業生全員の皆さんのご協力を今後ともいただくことを切にお願い申しあげる次第である。

## 8. 最後になりますが・・・

この間の取り組みの成果は、歴代の役員や、総会や諸行事にご参加いただいて近畿双松会を盛り上げていただいたすべての会員の皆様のご協力の賜物であり、お名前をすべて挙げることはできないが、厚く御礼を申し上げる次第です。

特に、押田良樹会長には温厚なお人柄で近畿双松会をリードいただくとともに、すべての行事にご参加いただき、同時にホームページも一人で運営いただきました。

さらに、土田和男常任幹事（16期）には全行事に「従軍カメラマン」として同行いただき、また、ウォーキング、ハイキング関係では古川幸孝氏（14期）、田中由美子氏（16期）の格別のご協力をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

加えて、山本雅昭常任顧問の特別のご配慮で事務局をおかさせていただいている㈱トーヨーコーポレーションの皆様、特にお世話をいただいている近田様にはこの間も大変なご協力をいただきました。ここに心からの御礼を申し上げ、この報告を終わらせていただきます。

以上